朝日夕刊 2009.7.24 〈13〉

新聞 (夕刊) 新聞定価 朝夕刊月ぎめ 3,925円(本体価格 3,738円、消費税 187円)、1部売り(税込み)朝刊 130円、夕刊 50円 第3種郵便物認可

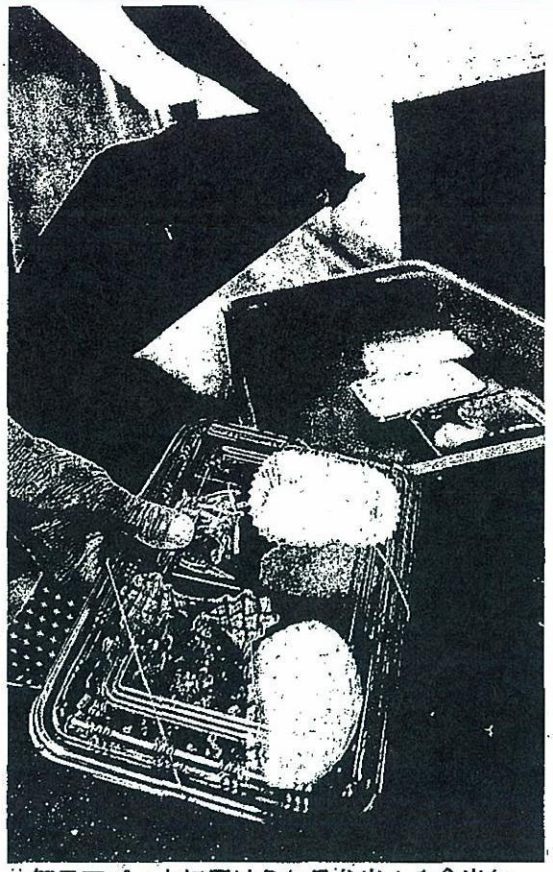
貧困ビジネス

1300円弁当「わしらカモ」

業者「イヤなら出て」

自社管理のアパートに住まわせ、不当に高い弁当を購入させる――。低所得者を食いものにする新手の「貧困ビジネス」の実態が、浮かび上がった。寝食がままならない路上生活者たちの弱みにつけこみ、生活保護費から利益を得る。取りはぐれのない商法が、都市部で広がりつつある。

（室矢英樹）＝1面参照



毎日アパートに届けられる弁当。1食当たり約1300円する＝堺市内、筋野健太撮影

堺市内の住宅密集地。平日の午後3時すぎ、軽乗用車がアパート前に横付けした。運転していた男が後部トランクから複数の弁当が入ったケースを取り出し、1階の直射日光が当たる廊下に無造作に置いた。

住人の50代男性はふたを開けるなり、顔をしかめた。「今日もにおいがきつい。こりゃ食えん」。約1300円する弁当のおかずは、野菜のあえ物やオムレツなど6種。サラダは生温かく、別の容器に入った白米はふやけていた。火が通った揚げ物だけを口に入れる。

「屋根がある」「飯の心配もいらん」。5年前の晩秋、大阪・JR難波駅近くで路上生活をしていた男性は、2人組の男に声をかけられた。「寮つきの仕事の紹介かと思った」。大阪市生野区内の事務所まで業者の車で向かい、アパートの紹介や弁当の宅配を受ける契約書への署名を求められた。

翌朝、堺市内のアパートに到着。言われるままに銀行で口座を開設した後、市に生活保護を申請し、月約12万円の受給が決まった。だが、手渡されるのは4万円ほど。「逃げようにも金がない。業者には毎月、手元の通帳に保護費が自動的に入る。わしらは取りはぐれがないカモや」

同じ住人の70代男性は、家賃と昼の弁当代を引かれて残るのは毎月約3万7千円。光熱費などを払うと、月末は朝晩の食事にも事欠く。数年前、業者に引っ越しを求めると、「勝手なことを言うな。イヤならすぐ出ろ」と威圧されたという。

業者は不動産賃貸・管理と食品加工・販売が目的の有限会社で、03年に設立された。取材に応じた担当者は「出て行きたければとめない。我々も『貧困ビジネス』と言われて神経を使っている。強制はしていない」と話す。

近畿生活保護支援法律家ネットワークの普門大輔弁護士は「受給者のキャッシュカードを使って保護費から割高な弁当代を前払いさせるのは、事実上のピンハネ。3万円程度の生活費では生活保護法が定める最低限度の生活を維持するのは不可能だ。自治体はきめ細かく受給者の生活実態を調べる必要がある」と指摘する。

説明会夏も超満員／留年後悔

大学3年生の就活が始まろうとしているこの時期、まだ内定をもらえない4年生があふれている。大学生の就職内

減

館大は11%減（7月中旬現在）、関西学院大は数%減（7月上旬現在）。7月末現

山口豪雨

2遺体を発

大雨で二次災害

17人の死者・行方不明者が出た山口県の集中豪雨災害で、県警や自衛隊による行方不明者の捜索が24日も続けられ、新たに2人の遺体が見つかった。これで死者は13人になった。被災現場では未明から雨が降り始め恐れも出ている夜から25日朝に間に最大30～50が予想されている治体に避難対策る緊急通知を出

死者・行方不た防府市では、切畑地区のた恐れが出てきた状況を調査する近の約100戸出した。

捜索は約64

麻薬「メ

密売容疑

中枢神経に効がある麻薬「メを密売したと厚生局麻薬取物密売サイト容疑者(35)＝有2丁目＝を薬取締法違反渡）の疑いで とがわかった。 ると、山本容 めているという

メチロンは